

第6学年国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日(〇)〇校時
学 級：第6学年〇組〇名
場 所：6年〇組教室
授業者：〇〇 〇〇

1 単元名 「調べた情報を用いて、日本文化のパンフレットにまとめよう」 （「日本文化を発信しよう」 光村図書6年）

2 単元の目標

- 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能] (1)カ
- 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2)ア
- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
[思考力、判断力、表現力等] B(1)イ
- ◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)エ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童の中には、「読むこと」や「書くこと」が得意な児童と苦手な児童が二極化している。自分の考えや思いを会話の中で伝えることは得意であるが、文章から必要な情報や工夫を見つけたら、自分の思いや考えを文章にまとめたりする力を課題とする児童が多い。

また、第6学年となり、「読むこと」の学習では、「時計の時間と心の時間」で、筆者の主張や意図を捉えるために、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたら、筆者の主張と、それを支える事例の関係を捉えたりする学習に取り組んだ。図表に関係のある文を選ぶことはできたが、筆者の主張とそれを支える事例の工夫に気付くことが難しかった。また、「書くこと」の学習では、「私たちにできること」で提案文を書く学習において、文章で表すことや構成を考えることにつまずきがあり、書くことへの苦手意識から、積極的に学習に取り組むことに課題が見られる姿もあった。

(2) 教材について

本単元では、自分で見たり聞いたり調べたりしたことをもとに、書く題材に対する知識や情報を獲得する。既に学習した『鳥獣戯画』を読む』では、筆者の表現の工夫を捉えて読み、そこで学んだ表現の工夫を活用する。読み手を意識した文章全体の構成や展開を考え、資料を用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を育てたい。

また、情報の収集については、図書室の書籍や1人1台端末を利用して、日本文化について調べ

たことをパンフレットに表現する力を高めていく。3学期の「メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために」で論の展開や表現の仕方に着目して複数の文章を読み、考えを交流することにつなげられるように指導を行っていく。

(3) 指導について

本単元は、学習指導要領において、以下の指導事項を受けて設定している。

【知識及び技能】

(1) カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

(2) ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力、判断力、表現力等】

B (1) イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮すること。

B (1) エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

本単元では、「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして日本文化のパンフレットを書こう」という言語活動を設定し、児童の興味・関心を高め、意欲的に取り組むことができるようにする。第一次では、扉のページを生かして、読む・調べる・書くという複合的な単元全体の見通しをもてるようにするとともに、指導者作成のパンフレット(日本文化に関するもの：和食、浮世絵、仏像、寺社、着物等)をモデルとして提示しながら相手意識と目的意識も喚起できるようにし、単元のゴールを意識できるようにする。また、パンフレットを教室内や廊下など児童が休み時間等を利用して手に取れるように掲示して、その工夫にも触れることで、そのイメージをもたせていく。

日本文化についてはイメージマップで視覚化することで日本文化のイメージを共有し興味・関心を高めていく。日本文化を調べるにあたっては、図書室を活用したり、1人1台端末で調べたりできるようにする。自分で選んだ本や情報等の表現の工夫についても『『鳥獣戯画』を読む』で学習したことを生かして、筆者(著者)の表現の工夫に気付くようにし、パンフレットに生かせるようにする。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。B(1)イ 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。B(1)エ 	文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって、パンフレットを作ろうとしている。

5 単元の展開(特別活動2時間、国語科6時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>特別活動</p> <p>「情報を比較・分析してみよう」の学習を通して、情報の真偽を確かめたり、多様な視点に触れたりすることで様々な見方・考え方が存在することを学習する。出典が明記されていることで、その情報の信憑性が高まったり、参考にしたりすることができるが、出典が明らかになっていないと著作権の侵害にもつながりかねない。そのような著作権とのつながりも含めながら、情報を比較したり、分析したりすることのよさを学ぶ。</p>				
一	①	<p>○学習の目的を理解し、見通しをもつ。</p> <p>・日本文化に関心をもち、学習課題を設定する。</p>	<p>・単元のゴールイメージをもてるようにする。</p> <p>・班ごとに調べたい日本文化のテーマを考えられるようにする。</p> <p>・記事を書くために、具体的に調べる項目をテーマから設定できるようにする。</p>	
	② ③	<p>○記事を書くために必要な情報を集め、整理する。</p>	<p>・本や1人1台端末を活用して、必要な情報を集められるようにする。</p> <p>・情報を書き留める目的をはっきりさせるようにする。</p> <p>・目的に応じて必要な情報を見つけるようにする。</p> <p>・出典となる情報を記録し、真偽を確かめるようにする。</p>	<p>【態度】 <u>観察・発言</u></p> <p>・必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりして、学習に粘り強く取り組もうとしている。</p>
二	④	<p>○身に付けた表現方法を用いながら、共通した項目に関する記事を書く。</p>	<p>・『鳥獣戯画』を読む」で学習した表現方法を振り返ることができるようにする。例えば、文末表現に着目し、体言止めを活用したり、絵の示し方に工夫をしたりするなど、自分の使ってみたい表現を見つけ出せるようにする。</p> <p>・教科書を参考に、「魅力を伝えたい」のか「歴史を紹介したい」のか「読み手が疑問に思いそうなことを説明したい」のか、最も伝えたいことが何なのかを、はっきりさせるようにする。</p> <p>・既習の『鳥獣戯画』を読む」で学んだ文章中における絵の提示の仕方を想起し、1人1台端末を用いて細部や全体、特徴的な部分を書き留めておくようにする。</p>	<p>【知・技】(1)カ <u>観察・ノート</u></p> <p>・文の中での語句の係り方、語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章とその特徴について理解している。</p>

	⑤	○パンフレットをグループの中で交流し、表現の幅を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を読み比べ、表現方法の違いに気付けるようにする。 ・それぞれの表現のよさに気付き、記事に生かせるようにする。 ・友達に読んでもらうことで、新たな気付きを得て、自分の文章に生かせるようにする。 	<p>【思・判・表】(1)エ 観察・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもって、パンフレットをつくらうとしている。
<p>特別活動</p> <p>「わたしたちの責任の及ぶ範囲を考えよう」の学習を通して、オンライン上に発信した情報は消えることのない足跡として残り、自分の出会ったことのない人にまで影響を及ぼすことがある。そのようなことを理解した上で、インターネットでの行動の振る舞い方やあり方を考えられるようにする。また、自分や他者に対する責任について考えることを通して、インターネット上での行動には責任が生じることを理解できるようにする。</p>				
三	⑥	○自分の考えが伝わるパンフレットを完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・引用したり、図やグラフを用いる時の決まりが守れているか確かめたり、効果的に用いることができているかどうか検討する。 	<p>【知・技】 観察・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。

6 本時の目標(6/6時間目)

引用したり、図表やグラフを用いる時の決まりを守ったり、効果的に用いることができているかを検討したりすることができる。

7 本時の展開(はデジタル・シティズンシップの指導の流れ)

	主な学習活動等	○指導上の留意点 ・予想される児童の反応 □評価規準
導入 (5分)	1. 本時のめあてをもつ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> たくさんの人に見てもらってもよい文章になっているかどうか検討しよう </div>	○児童が発信する相手意識をもてるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; background-color: #e0f0ff;"> 感情を確認 </div>
展開 (15分)	2. 例示の文章を提示し、相手意識をもちながら、適切な文章や図、グラフを活用しているかどうか検討する。	○学級通信や学年通信を用い、相手によって言葉遣いが変わっていることに気付くようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; background-color: #e0f0ff;"> 原因を特定 </div> <p>○特別活動で学習した責任のリングを振り返りながら、情報を発信する責任について想起させ、学習をつなげる。</p> <p>○1人1台端末上で、友達の作品を検討する。拡大</p>

		機能や付箋機能を使うことによって、訂正しやすいという端末のよさについて実感できるようにする。
(15分)	3. 観点に照らし合わせて自分たちの文章を検討する。	<p>○様々な角度から、発信しても不都合がない文章かどうか検討する。</p> <p>対応を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤字脱字はないか ・伝えたいことが伝わる表現になっているかどうか ・引用する時、図表やグラフを用いる時の決まり事を守ることができているか など <p>○指導者は、どのような観点で文章を見ていくとよいか、観点を整理する。</p> <p>□原因と結果など情報と情報との関係について理解しながら検討している。 (知技(2)ア)</p>
(5分)	4. 発表する。	<p>○最初の表現と見直した後の表現の違いが分かるように、グループごとに発表し、学習の成果を実感できるようにする。</p>
終末(5分)	5. 学習を振り返る。	<p>○自分の考えが伝わる文章にするために、これから生かしたいことを振り返る。</p> <p>行動の準備</p> <p>〔期待する児童の振り返り〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもつことで、文章表現や図の示し方がこれほど変わるとは思わなかった。 ・自分たちが紹介したい日本文化の内容を見直すことができ、自身をもって発信することができそうです。